國學院大學學術情報リポジトリ

岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料(2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上野, 善道 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000963

岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料（2）

上野 善道

キーワード：田野畑村方言、動詞、アクセント、過去形の核位置、長音動詞化

1. はじめに

岩手県三陸沿岸部地域の^{しもへい}下閉伊郡（simo[he:guN] ^{たのはた}田野畑村（ta[nohada] (mura)）方言の用言のアクセント資料を提示する。固有名詞の後の括弧内は方言による発音を示すが、記号については後出(2)を参照されたい。

これまで、執筆順と刊行順とが必ずしも一致しないものの、拙論（2021）では体言の類別語彙その他と代表的用言語彙の活用形アクセントを扱い、拙論（2020b）では、私家版の『アクセント調査票(C)』（用言篇）のうちⅢ（3拍動詞、5段）までを取り上げた。今回は後者の続編として、Ⅲ・Ⅳ（金田一語彙の「3・4拍動詞」、すなわち連用形は3拍、連体形は4拍の1段動詞）、そして、金田一語彙にはないが、Ⅳ（「4拍動詞」、Ⅳ・Ⅴ（「4・5拍動詞」、Ⅴ（5拍動詞）までを対象とし、そのいわゆる終止形と過去形を取り上げる。形容詞も調査済みであるが、次回とする。『アクセント調査票(C)』（用言篇）については拙論（2020b）の第4節を参照。

2. 話者

話者は、一連の拙論と同じく(1)の方である。話者の牧原氏については拙論（2021）の第1節、田野畑村の概況については拙論（2020b）の第2節に譲る。

(1) 調査地点と話者

岩手県田野畑村 牧原 登 (ma[gihara_no[boru] 氏 1945 (昭和20) 年生
元教員

3. 田野畑村方言の音の概要と表記

繰り返し書いているように、この方言は、岩手県三陸沿岸部方言の特徴として、シとス、チとツ、ジとズをほぼ標準語と同じ発音で区別する、いわゆる「非ズーズー弁」であること¹と、前鼻音化子音の^hb, ^hd, ^hzを持たずに通常の濁音 b, d, z で出ることが挙げられる（これらが無声化した場合でも前鼻音はない）。同県内陸部の方言とは、これらの点で大きく異なる。ただし、鼻濁音 (ng) はきちんと保持している点は共通する。また、無声の破裂・破擦子音は有声母音間で有声子音で現われる点も同じである（音韻的にも有声子音と解する）。

これを鼻濁音を持つ古い世代の東京方言と比べてみると、母音間の破裂・破擦子音の有声化を除けば、よく似ている。語頭のイとエの区別も保っている点も共通する。さらに、これから扱う動詞のアクセントも、終止形（現在形）の核——ただし、東京方言の下げ核/]/) に対して、この方言は昇り核/[/) である——の有無と位置はもとより、過去形における核の位置の交替も非常によく似ている。母音の無声化が核の位置に影響する点も、一時代前の東京方言に類似する。一言でこの方言の特徴を言うならば、東北のかなり交通の不便な地にありながら、その中では、(三陸沿岸北部を除けば) 他の東北諸方言と大きく異なり、もっとも東京方言に近いことにある²。

本稿の表記は(2)を用いるが、ほとんどローマ字表記の通りに読めばよい。注意を要するものについて、状況符号も含めて、記号類をそこにまとめて示す。これらの簡略音声記号は琉球を含む日本語諸方言をキーボードだけで入力できるように考案したもので、時に若干の変異を伴いつつも、長く使い続けているものである。これは、同時にほぼそのまま音韻表記も兼ねるようになっている（促音や無声化母音などは除く）。

(2) 記号類

ng：鼻濁音。ガ行鼻音 ŋ で、g (=g) とは区別される。

N：撥音のン。従って、Nnga はンカ°で、nga のカ°とは異なる。なお、促音は子音を重ね、本来は「:」である長音は、入力の関係でコロン「:」で代用する。

c：チ・ツの破擦音子音。ca はツァ、ci はチ、cu はツ、cja はチャ。

。：無声化の印。重要でない部分は一部簡略化した。

<m>：稀。見出し語形の使用は稀でもそのアクセントが得られた場合は記す。

<n>：新。新しい単語・用法。ただし、全体的により伝統的な方言の方に基準を置いた。

<o>：古。古い単語・用法。主に明治生まれを中心とする古老が用いていた単語・用法。

x：使わない意。その直後の語形は使わない意のときは、語形との区別のために<x>に。

<普>：こちらの方が普通で、普段よく用いる形。説明中では、ただ「普」とも略す。

<聞>：話者自身は使わないが、それを耳にすることはある意。

(OK)：私が観察・記録した限りにおいてこれで可であり、入力ミスにあらずの意。

(のみ)：別のアクセントや語形がある可能性を調べたが、それ以外は出なかった意。本来は<x>に当たる語形を逐一掲げるべきであるが、紙幅の関係でこのように略す。

語形内の()：例えば mi(j)a[daru³ (見当たる) は、mia[daru と mija[daru をまとめて表記したもの。語形は個別に示すのを原則としたが、紙幅の関係で () も適宜用いた。

[：アクセントの昇り核。(音声表記としては上昇を表わし、下降は] で示す。原則として直後の1モーラのみが高いが、時に2モーラ、ごく稀に3モーラ高さが続くこともある。)本文中では丸付き数字も用い、語

末から数えるときは前にマイナス（-）を付す。

=: アクセントの無核型の印で、語形の直後に付す。アクセント単位の最終モーラが高く実現する。

_ : アクセント単位の切れ目の印（本稿では話者の名前の読み方に出るのみ）。

見出し項目の[漢字]: 意味の違いを大まかに示し、調査の際の手掛かりとした。[;]も意味・用法差の大きいものに付したが、今回の記述は必要に応じて主に文章で示した。

自: 自動詞、他: 他動詞、可: 可能動詞（この方言の可能動詞形は、なお精査が必要）。紙幅の関係で、用例の代わりにこの情報のみを適宜記す。

4. 動詞のアクセント

4.1 終止形と過去形のアクセント

動詞の終止形（現在形）は、基本枠として無核型と有核型の2つの型を持つ。それをその過去形のアクセントとともに(3)に掲げる。

(3) 無核型と有核型

無核型	終止形	過去形	有核型	終止形	過去形
着る	kiru=	kjta=	見る	[miru	[mida
売る	uru=	utta=	切る	[kiru	[kitta
曲げる	mangeru=	mangeda=	受ける	u[geru	[ugeda
上がる	angaru=	angatta=	下がる	sa[ngaru	sa[ngatta
重ねる	kasaneru=	kasaneda=	預ける	azu[geru	a[zugeda
扱う	azuga=	azugatta=	補う	ongi[na:	ongi[natta
遅らせる	oguraseru=	oguraseda=	苦しめる	kurusi[meru	kuru[simeda
膨らます	huguramasu=	huguramasjta=	喜ばす	jorogo[basu	jorogo[basjta

そして、終止形と過去形は、核の有無において一致する。無核型は無核のまま一貫する。有核型の核の位置は、終止形では後ろから数えて2番目の次末モーラ（-②と表わす）にあるが、過去形では、可能な限り、タ/ダの付い

た形の前次末モーラ（-③）に来る。

2モーラ語の母音語幹動詞（1段活用、特殊活用）では、前次末がないために核はそれに一番近い次末モーラに来る結果、-②で終止形と同じ位置のまま動かないことになる。しかし、過去形が3モーラ以上の場合には-③に移る。これは、後ろから数えた場合の規則性であるが、これを前から数えると、子音語幹動詞（5段活用）はsa[ngaruとsa[ngatta（下がる）のようにその位置は動かないが、1段活用では、u[geruとu[geda（受ける）のように過去形では1モーラ前に移動することになる。この、前への移動の仕方が、東北諸方言の中では珍しいものであるとともに、東京方言と一致するのである。

参考までに、秋田との県境に位置する私の岩手県雫石方言（以下、雫石方言）の形は、u[geruとu[geda、kurusu[meruとkurusu[meda、a~zu[geruとa~zu[gedaが同じ位置に核があること、さらには[miruとmi[da、[kiru（切る）とkit[taでは過去形で核が後ろへ移動することを対比させると、田野畑方言の特徴がよく分かるであろう。

なお、この場合、語構成も考慮する必要がある。同じ「3・4拍動詞」でも「とび出る、滲み出る、湧き出る」のような後部が2モーラ1段動詞の複合動詞の場合は（語例は「出る」しか思い当たらないが）、単独で[deru、[dedaであることを受けて、tobi[deru、tobi[dedaなどとなり、-②のまま残る。-③にはならない。これが「手掛ける」であれば、終止形は同じ4モーラ語-②型のtenga[geruであっても、過去形はte[ngagedaと-③になる。これらも東京方言と同じである。

次に、母音の「無声化」が絡む例を見てみよう。無核型は無声化の影響がないので、有核型の母音語幹動詞のみを(4)に示す。

(4) 母音の無声化と核の位置

	終止形	過去形
来る	[kuru	kᶤ[ta
付ける	cᶤ[keru	cᶤ[keda
助ける	tasᶤ[keru	tasᶤ[keda

煤ける	susy[keru	susy[keda	
ぶつける	bucy[keru	bucy[keda	
やっつける	jaccy[keru	jaccy[keda	(jacu[keru, jacu[keda とも)

前次末モーラが無声化しているために過去形の核はその-③に来ることができずに-②に位置し、結果として、(2モーラ語を除き)終止形の核の位置と一致している。2モーラ語の「来た」では-2の母音が無声化しているので核は語末の-①に来る。そして(4)は、そもそも無声化には関係なく-②(2モーラ語は-①)に位置する雫石方言と、結果として一致する。

その一方で、この方言の「長音」(:)は核を担う上で制限がなく、(5)のように規則的に振る舞う。1段動詞と5段動詞に分けて示す。類例は多く、この点では東京方言と大きく異なる。

(5) 長音は規則的に核を担う

1段	終止形	過去形	5段	終止形	過去形
見える	me[ru	[me:da	返す	ke[:su	ke[:sɯta
食える	ke[ru	[ke:da	通る	to[:ru	to[:tta
合わせる	a[:seru	a[:seda	壊す	ka[:su	ka[:sɯta
抑える	ose[ru	o[:se:da	労る	ida[ru	ida[:tta
考える	kaNnge[ru	kaN[ngɛ:da	やり返す	jarike[:su	jarike[:sɯta

なお、oi, ai の i に関しては、1段動詞に o[iru, [oida (生いる、老いる)、5段動詞に ma[iru, ma[itta (参る = 降参) の例がある。

ちなみに、雫石方言では長音が核をもつことはなく、やや古いスタイルの発音では(5)の融合する母音は短くなって[meru と [meda (見える)、[keru と [keda (食える)、o[s(j)eru と o[s(j)eda (抑える)、kaN[ngeru と kaN[ngeda (考える) ; [kesu と [kesɯta (返す)、jaru[gesu と jaru[gesɯta (やり返す) となるが、核の位置は固定している。-awa- は一般に融合せず、awa[seru と awa[seda, ida[waru と idawat[ta, 「通る」は長母音を保って [to:ru と tot[ta となる(「取る」は [toru, tot[ta)。(5)では、5段動詞で促音便を取る過去形だけが核の位置が後ろへの交替を起こす。

4.2 前部要素に核を持つ複合動詞

田野畑方言の動詞が持つもう一つの特徴は、複合動詞において語頭に核のある形が多数あることである。そしてこの核は、(6)に見るように、過去形においても移動することがない。多くの場合は、語頭拍語は次末核との併用であるが、(6)では後者は省く。例は(6)以外にもあり、稿末の資料で次末核のみを記録してある単語においても、追加確認をすればさらに語頭核の例が見つかる可能性がある。

(6) 語頭に核のある複合動詞

	終止形	過去形	
出かける	[degageru	[degageda	
出過ぎる	[desungiru	[desungida	
見上げる	[mi(j)angeru	[mi(j)angeda	
見つける	[micu _ɕ keru	[micu _ɕ keda	
蹴飛ばす	[kettobasu	[kettobas _ɕ ta	
しやがる	[sijangaru	[sijangatta	(やりやがる意)
はっ散らかる	[hacciragaru	[hacciragatta	
取り出す	[toridasu, [toNdasu	[toridas _ɕ ta, [toNdas _ɕ ta	
ぶち込む	[buc _ɕ komu, [buzigomu	[buc _ɕ koNda, [buzigoNda	
書き過ぎる	[kagisungiru	[kagisungida	
見せつける	[misecu _ɕ keru	[misecu _ɕ keda	
乗り入れる	[noriireru	[noriireda	
やっつける	[jaccu _ɕ keru	[jaccu _ɕ keda	(「やっつける」も同様)
かっぱらう	[kappara:	[kapparatta	
くつつあさる	[kuccasaru	[kuccasatta	(ダニなどが「食い刺さる」)
蹴つまずく	[kezumazugu	[kezumazu _ɕ da	
跳ね回る	[hanemaru	[hanematta	
酔っ払う	[joppara:	[jopparatta	
ふっとばす	[huttobasu	[huttobas _ɕ ta	
盛り上がる	[mori(j)angaru	[mori(j)angatta	
掻き集める	[gagiazumeru	[gagiazumeda	([kagiazumeru とも)
ほっくり返す	[hokkurige:su	[hokkurige:ɕ _ɕ ta	
Cf. 干からびる	h _ɕ [karabiru	h _ɕ [karabida	

その前部要素は、「出、見、蹴、し(する)；はっ(掃き)、取り、ぶち(打ち)、書き、見せ、乗り、やっ(やり)、かっ(搔き)、くっ(食い)、跳ね、酔っ(酔い)、ふっ(吹き)、盛り、ほっ(掘り)」の1～2モーラの連用形で1段、5段を問わず、そのアクセント型にも制限は見られない。話者の回答から判断して、複合語全体として、話し手の主観的感情が込められたときに用いられるものと見られる。[kagiazumeru と並んで存在する [gagiazumeru (搔き集める) は、それが語音の上にも語頭濁音として反映されたものと考えられる。

以上を踏まえると、3モーラ語でも語頭に核が来ている<o>[arigu, [arita (歩く) と [he:ru, [he:tta (入る) の2例は、それぞれ「あり+行く」「這ひ+入る」の「複合動詞」に由来するものと考えられる。「参る」も「まる+入る」とされているが、me[:ru, me[:tta (お墓などに) と ma[iru, ma[itita (降参) であるのは、前者の用法はいち早く複合動詞の意識が薄れて単純動詞化したものであり、後者は、母音が融合していないことから見て、後からの借用語であろう。

ちなみに、(6)の最後に Cf.として掲げた「干からびる」は、語頭母音が無声化しているためにそこに核が来ることができず、2モーラ目に移っている。語頭核から転じたものと見る。

さらに、無声化とは無関係に第2モーラに核のある(7)のタイプもある。

(7) 第2モーラに核のある複合動詞

	終止形	過去形	
恐れ入る	o[soreiru	o[soreitta	
思い出す	o[moidasu	o[moidasjta	
使い込む	cɥ[ke:gomu	cɥ[ke:goNda	(cɥ[ke:komu cɥ[ke:koNdaとも)

前部要素が3モーラ連用形の場合で、その次末モーラに核が来る関係で複合語全体では第2モーラに核が来ている。ここでも過去形の核の位置は変わりない。「使い込む」もそれで、語頭モーラの無声化は無関係と見てここに入れた。これらから考えて、前部要素が4モーラ連用形であれば第3モーラに

固定核を持つ複合動詞がある可能性もあるが、調査語彙には含まれていない。なお、「恐れ入る、思い出す」は東京方言にもある型である。

ちなみに、(6)と(7)の中で雫石方言で③以前に核がくる例は、<o> de-[gageru, ke(t)[to~basu と <m>[ketto~basu, hac[curagaru と haccu[ragaru と <m>[haccuragaru, [jaccykeru, kap[parau, [keccuma~zugu, ha[nemaru (OK), jop[parau, hut[to~basu (sut[to~basu, but[to~basu も)、hi[kara~biru ; o[soreiru, o[moi~dasu で、田野畑方言より数が少ない。関連して、拙論 (2020a: 37-38) も参照。

5. 活用型の所属の違い

アクセントから離れるが、活用型の所属が標準語と異なる例としては、次の(8)がある。

(8) 活用型の違う例

標準語		田野畑方言		
		終止形	過去形	
5段	浮く	1段	<o>ugiru=	ugida=
	待つ		ma[ziru	[mazida
	睨む		nira[meru	ni[rameda Cf. 睨めっこ
	挟む		hasa[meru	ha[sameda
1段	舐める	5段	na[meru	na[metta
	閉じる		to[ziru	<o>to[zitta

これらは北奥方言に広く知られており、雫石方言にもある。ただし、「閉じった」は使わず to[~zuda だけであるが、否定形の to~zura[ne なら言わなくもない気がする。他は、ugiru=は年寄りから耳にしているだけであり、ma[zuru と nura[meru は使ったが、その過去形の発音は ma[zuda, nura[meda である。一方、hasa[meru と namet[ta は今でも使う。ただし、後者は舌で舐める場合のみで、「ナメタ真似をして」の比喩的用法は新しく、na[meda のみである。

6. ラ行動詞の長音動詞化

最後に、今のところ田野畑方言に特有の現象かと思えるものとして、ラ行動詞の（ワ行動詞を経ての）長音動詞化とでも呼ぶべき(9)の例がある。さらに、その後、今回の調査報告の範囲外も含めて話者の牧原氏が内省で報告してくれた(10)もある（アクセントはそれに基づいて新たに調査したものを記す）。

(9) ラ行動詞の長音動詞化 1

	終止形	過去形	
重なる	kasana=	kasanatta=	
謝る	aja[ma:	aja[matta	
絡まる	kara[ma:	kara[matta	
静まる	sizuma=	sizumatta=	(suzuma= とも)
欲しがる	hosi[nga: ?	hosi[ngatta	
悲しがる	kanasinga=	kanasingatta=	
Cf. 疑う	udanga=	udangatta=	
占う	ura[na:	ura[natta	

(10) ラ行動詞の長音動詞化 2

	終止形	過去形	
余る	a[ma:	a[matta	
寄り掛かる	[ukkgaga:	[ukkgagatta	
埋まる	uma=	umatta=	
決まる	kima=	kimatta=	
配る	ku[pa:, ku[ba:	ku[patta, ku[batta	
くまる	ku[ma:	ku[matta	(肩が凝る意)
けつかる	[kezugaga:	[kezugatta	(~ているの罵語)
困る	ko[ma:	ko[matta	
縛る	si[pa:, si[ba:	si[patta, si[batta	
迫る	se[ma:	se[matta	
染まる	soma=	somatta=	
粘る	ne[ba:	ne[batta	

ねまる	ne[ma:	ne[matta	(座る意)
嵌まる	hama:=	hamatta=	
隔たる	heda[ma:	heda[matta	
括る	kugu:=, ku[gu:	kugutta=, ku[gu	
目を閉じる	hik[ku:	hik[kutta	Cf. 雫石方言 hi[guru, higu[ta
Cf. 救う	sugu:=	sugutta=	

これらは、(10)の最後の2例を除き、標準語の-aruに終わる動詞が、-auに終わる動詞に対応する-a:の形で現われているのである。これは、Cf.で示したように、その過去形(や連用形)はどちらでも同じ-atta(や-atte)になることから、その頻度の高い形への類推によって-aruのグループから(-au >) -a:へと所属替えを起こしたものである。(10)の最後の2例も、全く同じ仕組みで-uruから-u:に所属が変わったものである。(-oruから転じた-o:の確例は、今のところ報告がない。)

実は、方向は正反対でありながら、過去形・連用形を介してこれと全く同じ仕組みでワ行動詞からラ行動詞が生じた変化が津軽方言、あるいはより広く南部方言も含む青森県方言に見られる。そこでは、karu=(買う)、boru=(追う、ボウ)、[nuru(縫う)、araru=(洗う)、ударu=(歌う)、na[raru(習う)、adengar=(宛てがう)、igi[aru(行き会う)など、多くの単語で(多少の方言差を含みつつ)生じている。古くから知られている現象であるが、語例は拙論(2019, 2020a)を参照。

なお、田野畑方言でも「撓う」をsi[naru, si[nattaという例があり、同じ変化で生じたものと見られるが、青森県方言の例とは分布が異なる。終止形の使用頻度が低いことから、いち早く個別に広範囲で生じたものなのであろう。雫石方言もsu[naru, sunat[taであり、私の意識としては「撓う」よりも「撓る」の方が標準語的という気さえするほどである⁴。

田野畑方言では青森県方言と全く逆の変化が(9)(10)で生じているのであるが、その理由は何であろうか。思うに、田野畑方言では、その類推変化が起こる前に、-au > -a: (ka:= 買う等)、-ou > -o: ([jo: 酔う等)、-uu > -u: (su:= 吸う等)の規則的な融合変化が生じて「音節数」が減ったことが関わっていると見たい。これが母音の融合前で音節が-a.u(.は音節の切れ目の印)

のように分かれていた段階であれば、たとえば ka.u は karu と音節数が同じゆえにより多数派の -ru の方向への変化（いわゆるラ行5段化）が起こりやすかったのであるが、それが -a: に変化した後では、音節構造の異質な -r 語幹化への変化は起こらず、むしろ音節数を減らす方への所属替えが起こったものとする。

その際に、(9)(10)に見られる実例が圧倒的に -a: であるのは、もともと -au の語例が多数派であることに加えて、そこに awa > a: の変化が規則的に生じたことが大きかったと考える。試みに終止形が -a:, -o:, -u: に終わる動詞の否定形を聞いてみた結果は(11)のようであった。

(11) 長母音に終わる動詞の否定形

語例	終止形	否定形
買う、会う、笑う、払う	-a:	kane:=, a[:ne:, warane:=, hara[:ne:
酔う、通う、揃う、迷う	-o:	jo[wane:, kajo:ne:=, soro[:ne:, majo[:ne:
吸う、食う、振るう、拭う	-u:	suwane:=, [kane:と ku[wane:, huruwane:=, nungu[:ne:

方言の文脈での発音を順番に一通り聞いただけの資料で、長母音形の存否を逐一聞いていないものの、-a: はすべて -w- のない長母音形で出ているのに対して、-o: と -u: は -owa-, -uwa- 形が混在している。すなわち、-a: がもともとその形を保持していて -aw 語幹になりやすく、その結果として、音節構造上 -aw 語幹と結びつきやすい -ar 語幹にもなりやすかったものとする。長母音化、とりわけ -au > -a: のそれが -r 語幹化への変化を妨げ、それとは逆の変化を引き起こしたと見る理由である。

ただし、(9) の変化を起こした例について、たとえばその命令形を聞いてみると、項目によって -e が出たり、-re が出たり、迷ったりもする。時には回答時によるゆれも見られ、不安定である。これは、まだ十分には確立していない状態を反映している可能性も一つ考えられはするが、(10) に関する牧原氏の内省を尋ねたところ、明治生まれの母堂が言うのを聞いた記憶によるもので、その後、大芦に住む2人の古老に聞いてみても「よく分からない」との返事であったという。従って、これらはかつて起こった（ないし、起こり

かけた) 変化であったが、今ではすでに消えてしまったと言っても過言ではない語形ということになる。

〔参考文献〕

- 上野善道 (2019) 「北奥方言の動詞のアクセント資料 (1)」『国立国語研究所論集』17: 101-130.
- 上野善道 (2020a) 「北奥方言の動詞のアクセント資料 (2)」『国立国語研究所論集』18: 35-75.
- 上野善道 (2020b) 「岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料 (1)」『ことばとくらし』(新潟県ことばの会) 32: 7-29.
- 上野善道 (2021) 「岩手県田野畑村方言のアクセント調査報告——北奥アクセント祖体系との関連で——」『国立国語研究所論集』20: 115-147.

注

- 1 もっとも、話者の牧原氏によると、外から入って来る人はその区別をもたない、ス・ズ・ツのズーズー弁の人が多く、次第にその勢力が増えてきているという。
- 2 ただし、2拍名詞の類の統合が1.2/3/4.5の外輪式方言で、東京方言の1/2.3/4.5の中輪式方言とは明らかに系譜を異にする。その点では、まぎれもなく東北方言の一つである。また、この方言の発音を聞けば、上記のアクセントの違いよりも、ada[ma]mo i[de]: (頭も痛い。音声表記) などから、紛れもなく東北の方言だと感ずるに違いない。なお、-ai が融合した母音は通常のエと同じで、広いエではない。以下、すべて e で表わす。なお、本稿において田野畑方言と対比して示す私の岩手県雫石方言では、親の代までは ai, ae に由来する広いエ (e) と元のエや oi に由来する狭いエ (e) との区別があったが、私はそれを失っている。
- 3 牧原氏によれば、この発音には、ア、ヤ、およびイとヤが微妙に混ざってやや延びる3つの発音があると言う。ただし、母音の長さの3段階と同様に、確かにその差は聞こえるが、ここでは最後の例は音韻的には母音イに密に続くヤの音声的変種と見ておくことにする。
- 4 「撓る」に関し、査読者からのコメントに、この語形は『日本国語大辞典』第2版にも立項されていて、その用例に童謡・船頭さん [1941] (武内俊子) 「年はとつてもお船を漕ぐ時は 元気一ぱい櫓がしなる 【ソレ ギッチラ ギッチラ ギッチラコ】」が引かれており、かつ、作詞者の武内は広島県の出身で、東北の影響があったとは考えにくい、とあった。見ると、同辞典には仮名草子・清水物語 [1638] の例も引かれてあり、古くから他方言にもあった可能性があることになる。もっとも、その<なまり>欄には、「シノ

ル〔北海道・青森・津軽語彙・津軽ことば・岩手・秋田鹿角〕スナル〔山形・福島〕スノル〔岩手〕と北海道・東北方言だけが挙げられている。

なお、この童謡は私もよく歌った記憶があり、それが「撓る」の方が標準語的と感じる要因となっているのかもしれない。ただし、生活に縁のない槽に使うことは稀で、指先などの体に関して言うのが普通である。（それを思うと、「反る」との関係も考えるべきかもしれない。）関連して、「装う」を「装る」と言うことは、私の方言にはない。そもそも稀用語で、衣服については mo[jou、御飯などは moru= を使う。「負ぶう」を「負ぶる」を言うこともなく、o[ˈbou と言う。

ちなみに、本稿提出直前にネット検索をしてみたところ、「毎日ことば」<https://mainichi-kotoba.jp/enq-190>（2020.11.30閲覧）には「しなう」か「しなる」か」が取り上げられ、「終止形「しなる」、未然形「しならせる」の組み合わせが8割超と大多数を占めました。」と出ていることを付け加えておく。

〔付記〕話者の牧原登氏のオンラインでのご教示に厚く御礼を申し上げる。入力の不備を指摘してくださった二人の査読者にも謝意を表す。本稿は JSPS 科学研究費19H00530（代表者：窪菌晴夫）による研究成果の一部である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」（プロジェクトリーダー：窪菌晴夫）、並びに「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（プロジェクトリーダー：木部暢子）の研究成果も兼ねる。

項目	終止形	過去形
動詞Ⅲ・Ⅳ		
◎1類(26)		
呆れる	agi[<i>reru</i>	a[<i>gireda</i>
与える	ade: <i>ru</i> =	ade: <i>da</i> =
溢れる	ahu[<i>reru</i>	a[<i>hureda</i>
慌てる	awateru=, awaderu= (<x>a:-)	awateda=, awadeda=
浮べる(他:可)	ugaberu=	ugabeda=
生れる	umareru=, <o>Nmareru=	umareda=, <o>Nmareda=
後れる[遅]	ogureru=	ogureda=
教える	ose: <i>ru</i> =	ose: <i>da</i> =
重ねる	kasaneru=	kasameda=
固める	kadameru=	kadameda=
聞える	kij̄ke: <i>ru</i> =	kij̄ke: <i>da</i> =
比べる	kuraberu=	kurabeda=
勧める[進, 薦](進の可)	susumeru=	susumeda=
廃れる	sȳtareru=	sȳtareda=
爛れる	tadareru=	tadareda=
仕える[Cf. 使える]	cȳke: <i>ru</i> = [同]	cȳke: <i>da</i> =
伝える(他:可)	cute: <i>ru</i> =; ?	cȳte: <i>da</i> =
並べる(他:可)	naraberu=	narabeda=
始める	hazimeru, hasimeru=(OK)	hazimeda=, hasimeda=
外れる	hazureru=	hazureda=
拡げる[広]	hirongeru=	hirongeda=
脹れる[膨](腹が; 不機嫌)	hugureru=	hugureda=
亡びる	horobiru=	horobida=
纏める	madomeru=	madomeda=
迎える	muge: <i>ru</i> =	muge: <i>da</i> =
忘れる	wasureru=, wasseru=	wasureda=, wasseda=
◎2類(38)		
預ける	azu[<i>geru</i>	a[<i>zugada</i>
集める	azu[<i>meru</i> , azu[<i>beru</i> . Cf. 掻き~ [kagiazumeru, [gagiazumeru	a[<i>zumeda</i> , a[<i>zubeda</i> . [kagiazumeda, [gagiazumeda
合せる[会, 逢]	a:[<i>seru</i>	a[<i>seda</i>
抑える[押]	ose[: <i>ru</i>	o[<i>se:da</i>
納める[治, 収, 修]	osa[<i>meru</i>	o[<i>sameda</i>
覚える	obe[: <i>ru</i>	o[<i>be:da</i>

項目	終止形	過去形
動詞Ⅲ・Ⅳ		
数える	kaNze[:ru	kaN[ze:da
被せる	kabu[seru, kapu[seru, [kapuseru	ka[buseda, kapu[seda, [kapuseda
構える(態度:可)	kame[:ru	ka[me:da
崩れる	kuzu[reru, <o>kyto[reru	ku[zureda, <o>ky[toreda
汚れる[穢]	kenga[reru	ke[ngareda
答える(返事:問に:体に [応])	kode[:ru	ko[de:da
零れる	kobo[reru	ko[boreda
壊れる[毀]	ka[:reru, bukka[:reru	ka[:reda, bukka[:reda
鎮める[静]	suzumeru=, <m>sizumeru=	suzumeda=
痺れる	sibi[reru	si[bireda
調べる	sira[beru	si[rabeda
供える(仏壇に:台風に[備])	sone[:ru	so[ne:da
倒れる	tao[reru, <o>to[:reru	ta[oreda, <o>to[:reda
助ける	tasu[keru, suseru= (仕事を)	tasu[keda, suseda=
尋ねる(人に:人を[訪])	tazu[neru, taNne[:ru	ta[zuneda, taN[ne:da (物を持つ 意の taN[nagu の過去形と同)
響える[囁]	tado[eru, <o>tade[:ru	ta[doeda, <o>ta[de:da
束ねる	taba[neru(大量は marugu=)	ta[baneda(大量は marutta=)
疲れる	cyka[reru, ko[we: (形容詞)	cy[kareda, [kowagatta, ko[wagatta
務める[勤,努]	cyto[meru	cy[tomeda
流れる	nanga[reru	na[ngareda
宥める(子供を)	nada[meru	na[dameda
離れる[放]	hana[reru	ha[nareda
開ける(自:可)	hira[geru, hira[keru	hi[rageda, hi[rakeda
弘める[広]	hiromeru=	hiromeda=
隔てる	heda[deru	he[dadeda
委せる[任]	maga[seru	ma[gaseda
紛れる(気が)	mangi[reru	ma[ngireda
乱れる	mida[reru	mi[dareda
儲ける(金を:席を[設])	mo[:geru	mo[:geda
求める	modo[meru	mo[domeda
破れる(自:可)[敗]	<m>jabu[reru (障子?), 試合は mageru=	<m>ja[bureda, mageda=
別れる[分]	waga[reru	wa[gareda

項目	終止形	過去形
動詞Ⅲ・Ⅳ		
◎3類(5)		
抱える(赤ん坊、仕事を)	kage[:ru]	ka[ge:da]
隠れる	kagu[re:ru]	ka[gure:da]
支える	sase[:ru(人を), ose[:ru]	sa[se:da, o[se:da]
捧げる	sasa[ngeru]	sa[sangeda]
捕える	tore[:ru, <普>torame[:ru]	to[re:da, <普>tora[me:da]
◎他の金田一語彙1類(6)		
埋める(骨を)	uzumeru=, <普>umeru=	uzumeda=, <普>umeda=
掠める	kasumeru=	kasumeda=
萎れる	sioreru=, sio[re:ru, sinapykeru=, sinapyke:ru=	sio:reda=, si[oreda sinapykeda=, sinapyke:da=
勝れる	sungureru= (OK)	sungureda=
留める[止]	todomeru=	todomeda=
報いる	<m>mugu[iru]	<m>mu[guida]
◎他の金田一語彙2類(13)		
崇める	angameru=, anga[meru]	angameda=, a[ngameda]
愛える	ure[:ru]	u[re:da]
恐れる[怖]	oso[re:ru]	o[soreda]
叶える[適]	kane[:ru]	ka[ne:da]
奏でる	kana[deru]	ka[nadedda]
絡げる	kara[ngeru]	ka[rangeda]
清める	kijo[meru]	ki[jomeda]
極める[究,窮]	kiwa[meru]	ki[wamedda]
授ける	sazugeru= (OK)	sazugeda=
定める	sada[meru]	sa[damedda]
称える[湛]	tade[:ru, tada[eru [<m>水を]	ta[de:da]
咎める	tonga[meru]	to[ngamedda]
交える	mazje[:ru Cf. ma[zeru (混ぜる)]	ma[zje:da]
◎その他(99)		
暴れる	abareru=	abareda=
甘える	ame:ru=	ame:da=
苛める	izi[meru (OK)]	i[zimeda]
薄める	usumeru=	usumeda=
薄れる	usureru=	usureda=
埋もれる	umoreru=, <o>Nmore:ru=	umoreda=, <o>Nmore:da=
応じる	o:ziru=	o:zida=

項目	終止形	過去形
動詞Ⅲ・Ⅳ		
送れる〔贈〕(可)	ogureru= (遅れるに同.可も)	ogureda=
煽てる	odaderu=	odadeda=
溺れる	oboreru=	oboreda=
屈める(腰を:可)	kangameru=	kangameda=
かぶれる(漆など)	kabureru=	kabureda=
感じる	kaNziru=	kaNzida=
括れる	kubireru=	kubireda=
加える(数を:仲間に,:口に 〔咥〕)	kuwe[:ru; ka[:deru. 仲間の数を 増やすことにも; 犬は口に 〔kuNme:ru (<o>人にも, 手拭い を〜て)	ku[we:da; ka[:deda; [kuNme:da
拵える	kosse[:ru, kosire[:ru	kos[se:da, kosi[:re:da
しかめる(顔を)	sjikameru=	sjikameda=
沈める(他;可)	suzumeru= ([ze:mogu 材木を)	suzumeda=
萎びる	sinabiru=, sinapijke[:ru (〜返る は, 一連の経緯の後についてに〜し てしまう意)	sinabida=, sinapijke[:da (OK)
知らせる	siraseru= (OK)	siraseda=
生じる	sjoziru=	sjozida=
窄める(傘を)	syopomeru=	syopomeda=
煎じる	seNziru=	seNzida=
縮める	cizimeru=, cuzumeru=	cizimeda=, cuzumeda=
縮れる	cizireru= (のみ)	cizireda=
通じる	cuziru=	cuzida=
続ける(他;可)	cuzugeru= (のみ)	cuzugeda=
潰れる	cubureru=	cubureda=
出かける	dega[:geru, [degageru	de[gageda, [degageda
出過ぎる	desu[ngiru, [desungiru	de[sungida, [desungida
寝かせる	negaseru=	negaseda=
眠れる(可)(Cf. ~獅子)	nemureru= (<x>~[sisi)	nemureda
のろける	norokeru= (OK)	norokeda=
ぶつける	bucy[:keru, [bucykeru	bucy[:keda, [bucykedu
震える〔振,揮〕(自;可)	hurueru=, hure:ru=	hurueda=, hure:da=
焙じる	hoziru=	hozida=
捲れる(自;可)	magureru=	magureda=
丸める	marumeru=	marumeda=
見飽きる	mi(j)a[:giru, [mi(j)agiru	mi[:(j)agida, [mi(j)agida

項目	終止形	過去形
動詞Ⅲ・Ⅳ		
見上げる (空;立派)	mi(j)a[ngeru, [mi(j)angeru	mi[(j)angeda, [mi(j)angeda
見付ける	micu[keru, [micu[keru	micu[keda, [micu[keda
認める	mido[meru	mi[domeda
むくれる (不機嫌)	mugureru=	mugureda=
命じる [銘]	me:ziru=	me:zida=
用いる	<m>mozi[:ru, <普>cyka:=	mo[:zi:da, <普>cykatta=
貰える (可)	more:ru=, moraeru=	more:da, moraeda=
やらせる (使役)	jaraseru= (のみ)	jaraseda=
やられる (受身)	jarareru=, jara[reru (<x>-raeru)	jarareda=, ja[rareda (<x>-raeda)
汚れる	jongoreru=	jongoreda=
炒める [痛, 傷]	ida[meru	i[dameda
負ぶえる (可)	obu[eru	o[bueda
思える (可; 自)	omo[eru	o[moeda
泳げる (可)	ojo[ngeru	o[jongeda
着替える	kinge[:eu	ki[nge:da
鍛える	kjite:ru= (OK)	kjite:da=
挫ける (自; 可)	kuzi[geru	ku[zigeda
砕ける (自; 可)	ku[ta[geru (OK)	ku[tageda
食わせる	ka[seru (OK)	[kaseda
拗れる (病気, 話)	kozi[reru	ko[zireda
堪える	kore[:ru	ko[re:da
栄える	sage[:ru	sa[ge:da
寂れる (町)	sabi[reru, sapjke[:ru (ついでに)	sa[bireda, sapjke[:ta (OK)
仕上げる	sija[ngeru	si[jangeda
仕掛ける	sjka[geru (のみ)	sj[kageda
仕立てる	sjta[deru (のみ)	sj[tadeda
滲み出る	simi[deru	simi[deda
白ける	sira[keru, sira[geru	si[rakeda, si[rageda
信じる	siNziru=	siNzida=
煤ける	susy[keru (OK)	susy[keda
狭める	seba[meru	se[bameda
損ねる	sogo[neru	so[goneda
育てる (他; 可)	soda[deru	so[dadeda
揃える (他; 可)	sore[:ru	so[re:da
高める	taga[meru	ta[gameda

項目	終止形	過去形
動詞Ⅲ・Ⅳ		
手掛ける	tenga[geru	te[ngageda
たまげる(驚)	tama[ngeru, <m>taNma[ngeru	ta[mangeda, <m>taN[mangeda
ちぎれる(自;可)	cingi[reru	ci[ngireda
支える(頭が;胸に)[悶,痞]	cũke[ru, <普>cũkke[ru	cũ[ke:da, <普>cũk[ke:da
憑かれる(霊に)	cũka[reru	cũ[kareda
強める	cujo[meru	cu[jomeda
届ける	todo[geru, tozu[geru	to[dogeda, to[zugeda
飛び出る	tobi[deru	tobi[deda
恍ける[惚]	tobogeru=	tobogeda=
眺める	nanga[meru	na[ngameda
怠ける	nama[keru, nama[geru	na[makeda, na[mageda
煮立てる	nida[deru, nita[deru	ni[dadeda, ni[tadeda
振れる(自;可)	nezi[reru	ne[zireda
寝惚ける	nebokeru=, nebogeru=	nebokeda=, nebogeda=
弾ける(豆;可)	hacj[keru, hazi[geru	hacj[keda, ha[zigeda
拉げる	<m>hisja[ngeru, <m>hisi[ngeru	事実上<x>
含める(他;可)	hugu[meru	hu[gumeda
ふざける	huzakeru=, huzageru=	huzakeda=, huzageda=
ふやける(湯で)	huja[keru, huja[geru	hu[jakeda, hu[jageda
解ける(他;可)	hodo[geru	ho[dogeda
ほやける(焦点;不平(可))	boja[keru=, boja[geru	bo[jakeda, bo[jageda
目覚める(朝~;人生に)	meza[meru	me[zameda
休める(他;可)	jasu[meru	ja[sumeda
窶れる	jazu[reru	ja[zureda
緩める	juru[meru	ju[rumeda
結わえる	juwe[ru	ju[we:da
湧き出る	wagi[deru	wagi[deda (OK)
動詞Ⅳ (200)		
扱う	azu[ga:	azu[gatta
宛がう	adenga=	adengatta=
戴く(もらう[頂];雪を)	idadagu=(目上; <x>雪), <普>mora:=	idadaida=, idade:da=
伺う(聞く;家に;様子を[窺])	uganga=	ugangatta=
受け取る	uge[loru	uge[dotta
失う	usina:=	usinatta=

項目	終止形	過去形
動詞IV		
埋まる	uzumaru=, umaru=	uzumatta=, umatta=
疑う	udanga=	udangatta=
疑る	udanguru=	udangutta=
打ち込む(球を:仕事に)	ucij[komu, uzi[gomu	ucij[koNda, uzi[goNda
頷く	una[zugu	una[zu:da, una[zuida
うろつく	uro[zugu, uro[cugu	uro[zuida, uro[zu:da, uro[cuida, uro[cu:da
行なう	ogona=	ogonatta=
教わる	osowaru= (<x>osa:ru=), <普>na[ra:, ose:rareru=	osowatta= (<?>osa(:)tta=), <普>na[ratta, ose:reda=
落ち着く	ozizugu. (ozicugu の人も)	ozizuida, ozizu:da. (ozicuida, ozicurda)
嚇かす[威]	odokasu=, odogasu=	odokasjta=, odogasjta
書き取る	kakij[toru, kagij[toru, kagidoru	kakij[totta, kagij[totta, kagij[dotta
重なる(物,日程が)	kasanaru=, kasana:= (OK), (<x>kasanau=)	kasanatta=
がたつく	gadazugu=, gadacugu=	gadazu:da=, gadazuida= gadacu:da=, gadacuida=
固まる	kadamaru=	kadamatta=
勝ち抜く	kazinugu	kazinuida (<x>kazinu:da)
噛み合う(話が:相互に)	kamija:	kamijatta
切り出す(木,話を)	kiridasu	kiridasjta
食い込む(上位に:下着が)	kui[komu, kui[gomu	kui[koNda, kui[goNda
蹴飛ばす	[kettobasu, ketto[basu	[kettobasjta, ketto[basjta
転がす	korongasu=	korongasjta=
転がる	korongaru=	korongatta=
囁く	sasajagu	sasaje:da
ざらつく	zaracugu=, zarazugu=	zaracu:da=, zarazu:da=
従う	sjtanga=	sjtangatta=
締め切る(窓:申込みを[メ])	sime[kiru, sime[giu	sime[kitta, sime[gitta
戦う	tadaga:	tadagatta
立ち寄る	tazijoru	tazijotta
縮かむ(手が)	cizikamu=, cicikamu=, cizigamu=, <聞>cucukamu=	cizikaNda=, cicikaNda=, cizigaNda=, <聞>cucukaNda=
縮まる	cizimaru= (のみ)	cizimatta=
散らかす(部屋を)	ciragasu=, [hacciragasu, haccira[gasu	ciragasjta=, [hacciragasjta, haccira[gasjta

項目	終止形	過去形
動詞IV		
散らかる	ciragaru=, [hacciragaru, haccira[garu,	ciragatta=, [hacciragatta, haccira[gatta
散らばる	cirabaru= (, [haccirabaru ?)	cirabatta=
掴まる(手すりに;泥棒[捕])	cyka[maru	cyka[matta
伝わる(昔から,熱が)	cyta:ru=, cytawaru=	cytatta=, cytawatta=
繋がる	cunangaru=	cunangatta=
躓く	cuma[zugu	cuma[zu:da, cuma[zuida
出歩く	dea[rugu, dea[rigu, [dearugu, [dearigu, <o>deja[rigu <o> [dejarigu	dea[ruida, dea[ri:da, dea[rutta, dea[ritta, [dearutta, [dearitta, <o>deja[ritta, <o>[dejarutta, <o>[dejaritta
止まる[留]	todomaru=	todomatta=
取り出す(中から,取り始める)	tori[dasu, [toridasu, [toNdasu (中から物をのみ)	tori[daſi:ta, [toridasſi:ta [toNdaſi:ta
始まる	hazimaru=, hasimaru= (OK)	hazimatta=, hasimatta=
働く(労働;力が)	hadaragu=, ka[sengu	hadare:da=, ka[se:da
広がる[拡]	hirongaru=	hirongatta=
広まる[弘](噂)	hiromaru=	hiromatta=
脹らむ	huguramu=	huguraNda=
塞がる(手,口が)	husangaru=	husangatta=
ぶち込む	buzi[gomu, buci[komu, [buzigomu, [bucikomu, <m>buzi[komu	buzi[goNda, buci[koNda, [buzigoNda, [bucikoNda, <m>buzi[koNda
ぶつかる(人;横綱と)	bucy[karu, [bucykaru	bucy[katta, [bucykatta
ふらつく(足)	huracugu=, hurazugu=	huracuida=, huracu:da=, hurazuida=, hurazu:da=
震わす(体,声を)	huruwasu=	huruwaſi:ta=
凹ます(缶などを,相手を)	hekomasu=, hekkomasu=	hekomasi:ta=, hekkomasi:ta=
べたつく(手が;男女が)	bedazugu=, bedacugu=	bedazu:da=, bedacu:da=
まごつく	mangocugu=, mangozugu=	mangocuda=, mangozu:da=
纏まる	madomaru=	madomatta=
見当たる	mi(j)a[daru, [mi(j)adaru	mi(j)a[datta, [mi(j)adatta
見送る	mi(j)o[guru, <聞>[mi(j)oguru	mi(j)o[gutta, <聞>[mi(j)ogutta
見落とす	mi(j)o[dosu, [mi(j)o[dosu	mi(j)o[doſi:ta, [mi(j)odoſi:ta
見通す	mido[:su, <聞>[mido:su	mido[:ſi:ta, <聞>[mido:ſi:ta
むずかる(赤ん坊が)	muzu[garu, muzu[karu, mucy[karu	muzu[gatta, muzu[katta, mucy[katta
巡らす	<m>mengu[rasu, <m>mengurasu=	<m>mengur[raſi:ta <m>menguraſi:ta=

項目	終止形	過去形
動詞IV		
挽き取る	mongi[toru	mongi[totta
持ち寄る	mozi[joru	mozi[jotta
催す(会;大小便)	mojo[:su	mojo[:sɔ̃ta
養う	jasina:=	jasinata=
やらかす(失敗)	jara[gasu, jara[kasu	jara[gasɔ̃ta, jara[kasɔ̃ta
ゆさぶる	jusaburu=	jusabutta=
味わう	azi[wa:	azi[watta
預かる	azu[garu	azu[gatta
汗ばむ	ase[bamu	ase[baNda
集まる	azu[maru, azu[baru	azu[matta, azu[batta
あやかる	aja[garu, aja[karu	aja[gatta, aja[katta
怪しむ	aja[simu	aja[siNda
危ぶむ	aja[bumu	aja[buNda
謝る[誤]	aja[ma: (OK)	aja[matta (命令 aja[mae)
争う	ara[so:	ara[sotta
表わす(言葉に;姿[現]; [著])	ara[wasu (本は[kagu, [dasu)	ara[wasɔ̃ta
合わさる	a:[saru	a:[satta
泡立つ	awa[dazu (a:[dazu の人も)	awa[datta
言い張る	i:[haru, zjo:baru=, zjo:paru= (意地を)(OK) <x>zjopparu=	i:[hatta, zjo:batta=, zjo:patta=
行き会う	igi[a:, igi[ja:	igi[atta, igi[jatta
意気込む	igi[ngomu, igi[gomu	igi[ngoNda, igi[goNda
弄くる	izi[guru, izi[kuru, icɔ̃[kuru, <普>cjo[:su	izi[gutta, izi[kutta, icɔ̃[kutta, <普>cjo[:sɔ̃ta
劳わる	ida[:ru	ida[:tta
偽る	izu[waru	izu[watta
居直る	ina[oru	ina[:otta
嫌がる[厭]	ija[ngaru, jaNta[ngaru, [jada, [jaNta (後二者は子供)	ija[ngatta, jaNta[ngatta [jadatta, [jaNtagatta
苛立つ	ira[dazu	ira[datta
入り組む	iri[gumu, iri[kumu	iri[guNda, iri[kuNda
色付く	iro[zugu	iro[zuida, iro[zu:da
動かす	ungo[gasu, ingo[gasu	ungo[gasɔ̃ta, ingo[gasɔ̃ta
生み出す[産]	<m>umi[dasu. 「膿み出す」は[umidasu も.	<m>umi[daɔ̃ta. 「膿み出す」は[umidasɔ̃ta も.
裏切る	ura[ngiru	ura[ngitta

項目	終止形	過去形
動詞IV		
占う	ura[na:	ura[natta
羨む	ura[jamu	ura[jaNda
売り出す	uri[<i>dasu</i> (のみ)	uri[<i>dasjta</i>
潤う	uru[o:	uru[otta
追い越す	oi[kosu, oi[<i>gosu</i> , bok[kosu, boi[kosu, boi[<i>gosu</i>	oi[kosjta, oi[<i>gosjta</i> , bok[kosjta, boi[kosjta, boi[<i>gosjta</i>
補う	ongi[na:	ongi[natta
奥まる	ogu[maru	ogu[matta
収まる[納,収,修,治]	osa[ma: (OK)	osa[matta (命令 o[same:)]
押し込む(狭いところに)	osi[komu, osi[<i>gomu</i>	osi[koNda, osi[<i>goNda</i>
驚く	odo[<i>rogu</i> (目が覚める意も)	odo[<i>roida</i> (びっくりした) odo[<i>rotta</i> (目が覚めた)
負ぶさる	opu[saru, obu[saru	opu[satta, obu[satta
囲まう(犯人などを[匿])	kagu[ma: (雪囲いも)	kagu[matta
高張る	kasabaru=, kasa[baru, gasabaru=, gasa[baru,	kasabatta=, kasa[batta, gasabatta=, gasa[batta
片付く(仕事:部屋が)	kada[zugu	kada[zu:da
傾く	kada[muku, <m>kada[bugu	kada[muida, <m>kada[buida
偏る	kada[joru	kada[jotta
悲しむ	<m>kanasimu=, kanasinga:=	kanasiNda=, kanasingatta=
被さる	kabu[saru, kapu[saru	kabu[satta, kapu[satta
からかう	kara[ga:	kara[gatta
絡まる	kara[maru, kara[ma:	kara[matta
乾かす	ka:[gasu	ka:[gasjta
感付く	kaN[zugu, gaN[zugu	kaN[zu:da, gaN[zu:da
頑張る	gaN[baru	gaN[batta
着飾る	kjka[zaru (のみ)	kjka[zatta
聞き取る(方言を:警察が)	kjki[toru, kigi[toru	kjki[totta, kigi[totta
傷つく	kizu[zugu, kizu[cugu	kizu[zu:da, kizu[cu:da
くたばる(過労:死ぬ)	kutabaru= (OK)	kutabatta=
くつつく(手に:二人が)	kuc[cugu, [kuccugu	kuc[cu:da, [kuccu:da
苦しむ	kuru[simu	kuru[siNda
黒ずむ	kuro[zumu	kuro[zuNda
こだわる	koda[:ru	koda[watta, koda[:tta
断わる(拒否:一言~)	kodo[waru	kodo[watta
ごまかす	goma[kasu (<x>goma[<i>gasu</i>)	goma[kasjta

項目	終止形	過去形
動詞IV		
恐がる	kowa[ngaru, <普>okkanangaru=	kowa[ngatta, <普>okkanangatta=
逆らう	saga[ra:	saga[ratta
先立つ	sagi[dazu	sagi[datta
さ迷う	sama[jo:	sama[jotta
寒がる	samu[ngaru, sabu[ngaru	samu[ngatta, sabu[ngatta
騒めく	zawa[megu, za:[megu	zawa[me:da, za:[me:da. (OK)
仕上がる	sija[ngaru. Cf. とんでもない 事なら[sijangaru, sija[ngaru	sija[ngatta. Cf. [sijagatta, sija[ngatta
しくじる(失敗)	sigu[ziru	sigu[zitta
静まる(しーんと;反乱[鎮])	sizumaru=, sizuma=, suzumaru=, suzuma=	sizumatta= (命令は sizumare=), suzumatta=
しでかす	side[gasu, side[kasu	side[gasjta, side[kasjta
支払う	siha[ra:	siha[ratta
陣取る	ziN[doru	ziN[dotta
咳込む	seki[komu, segi[komu, segi[gomu	seki[koNda, segi[koNda, segi[goNda
高まる	taga[maru	taga[matta
耕す	tanga[jasu, tangaje[:su Cf. [hokkurige:su, hokkurige[:su (掘っくり返す)	tanga[jasjta, tangaje[:sjta [hokkurigesjta, hokkurige[:sjta
助かる	tasu[karu	tasu[katta
楽しむ	tano[simu	tano[siNda
騙かす	dama[kasu, dama[gasu, damakura[gasu, damakura[kasu	dama[kasjta, dama[gasjta, damakuragasjta, -kura[kasjta
ためらう	tame[ra:	tame[ratta
近づく	cjka[zugu	cjka[zu:da, cjka[zuida
血迷う	cima[jo: (, cimajo:= も?)	cima[jotta
ちよん切る	cjoN[ngiru	cjoN[ngitta
付き合う(一杯～;男女が)	cugi[(j)a:, [cugi(j)a:	cugi[(j)atta, [cugi(j)atta
憤む	cuzu[simu	cuzu[siNda
つつく	cuc[cugu	cuc[cu:da
勤まる	cyto[maru	cyto[matta
眩く	cubujagu=	cubujaida=, cubuje:da=
窄まる	cypomaru=, cubomaru=	cypomatta=, cubomatta=
でしゃばる	desja[baru	desja[batta
手伝う	tezu[da:	tezu[datta

項目	終止形	過去形
動詞IV		
手渡す	tewa[<i>dasu</i>	tewa[<i>dasita</i>
伴う	tomona=(OK)	tomonatta=
尖がる	toN[<i>ngaru</i> , to[<i>ngaru</i>	toN[<i>ngatta</i> , to[<i>ngatta</i>
長引く	nanga[<i>bigu</i>	nanga[<i>bi:da</i>
悩ます	naja[<i>masu</i>	naja[<i>masita</i>
匂わす	nio[<i>wasu</i> , nijo[<i>wasu</i>	nio[<i>wasita</i> , nijo[<i>wasita</i>
寝過ごす	nesu[<i>ngosu</i>	nesu[<i>ngosita</i>
のさばる	nosa[<i>baru</i>	nosa[<i>batta</i>
捗る	haga[<i>doru</i>	haga[<i>dotta</i>
励ます	hange[<i>masu</i>	hange[<i>masita</i>
挟まる(指が, 菌に)	hasa[<i>maru</i>	hasa[<i>matta</i>
はむかう	hamu[<i>ga:</i>	hamu[<i>gatta</i>
ばらまく	bara[<i>magu</i>	bara[<i>maida</i> , bara[<i>me:da</i>
春めく	haru[<i>megu</i>	haru[<i>me:da</i>
皮肉る	hiniguru=(OK)	hinigutta=
捻くる	hine[<i>kuru</i> , hine[<i>guru</i>	hine[<i>kutta</i> , hine[<i>gutta</i>
冷やかす(人:店を)	hija[<i>kasu</i> , hija[<i>gasu</i> ; .店は稀	hija[<i>kasita</i> , hija[<i>gasita</i>
閃く	hira[<i>megu</i>	hira[<i>me:da</i>
踏ん張る	huN[<i>baru</i>	huN[<i>batta</i>
欲しがる	hosi[<i>ngaru</i> (, hosu[<i>ngaru</i> は余 所人が主), hosi[<i>nga:</i> もか.	hosi[<i>ngatta</i> (, hosu[<i>ngatta</i>)
ほじくる	hozi[<i>kuru</i> , hozi[<i>guru</i> , hocj[<i>kuru</i>	hozi[<i>kutta</i> , hozi[<i>gutta</i> , hocj[<i>kutta</i>
施す(面目を)	hodo[<i>gosu</i>	hodo[<i>gosita</i>
賄う(食事を:この額で)	maga[<i>na:</i>	maga[<i>natta</i>
跨がる(馬に:両方に)	mada[<i>ngaru</i>	mada[<i>ngatta</i>
間違う	mazi[<i>nga:</i>	mazi[<i>ngatta</i>
纏わる	mazu[<i>waru</i>	mazu[<i>watta</i>
間に合う	mani[<i>ja:</i> , mani[<i>a:</i>	mani[<i>jatta</i> , mani[<i>atta</i>
導く	mizi[<i>bigu</i>	mizi[<i>bi:da</i>
向き合う(二人が:現実)	mugi[<i>ja:</i> , mugi[<i>a:</i>	mugi[<i>jatta</i> , mugi[<i>atta</i>
儲かる	mo:[<i>garu</i>	mo:[<i>gatta</i>
もたらす	moda[<i>rasu</i>	moda[<i>rasita</i>
基づく	modo[<i>zugu</i>	modo[<i>zu:da</i>
役立つ	jagu[<i>dazu</i>	jagu[<i>datta</i>
休まる(気が)	jasu[<i>maru</i>	jasu[<i>matta</i>

項目	終止形	過去形
動詞IV		
欲張る	jogu[baru	jogu[batta
横切る	jogo[ngiru	jogo[ngitta
喜ぶ	joro[gobu	joro[goNda
よるめく(足, 誘)	joro[megu	joro[me:da(OK)
弱まる	jowa[maru	jowa[matta
割り切る	wari[giru, wari[kiru	wari[gitta, wari[kitta
動詞IV・V (40)		
懂れる	agonga[reru (OK)	ago[ngareda
埋もれる(雪に: 価値が)	uzumoreru=, uzumo[reru もか, umoreru=	uzumoreda=, uzu[moreda, umoreda=
うなされる(夢)	unasa[reru	una[sareda
うなだれる	unadareru=, unada[reru	unadareda=, una[dareda
うぬぼれる	unuboreru=, unubo[reru	unuboreda=, unu[boreda
後らせる	oguraseru=	oguraseda=
落ち着ける(他: 可)	ozizu[geru, ozicy[keru 可は ozizuge[je:ru, ozizu[ge:ru	ozizugeda, ozicy[keda ozizuge[je:da, ozizu[ge:da
書き過ぎる	kagisu[ngiru, [kagisungiru	kagi[sungida, [kagisungida
拵える	kosire[:ru, kosse[:ru	kosi[re:da, kos[se:da
掴まえる	cykame[:ru	cyka[me:da
出迎える	demuge[:ru, <聞>[demuge:ru	demu[ge:da, <聞>[demuge:da
取り入れる	torii[reru, [toriireru	torii[reda (OK), [toriireda
ぶら下げる	burasa[ngeru, [burasangeru	bura[sangeda, [burasangeda
見違える	mizinge[:ru, [mizinge:ru	mizi[nge:da, [mizinge:da
見せつける	[miscykeru, miscy[keru	[miscykedda, miscy[keda
諦める	agira[meru	agi[rameda
暖める	adada[meru, atta[meru	ada[damedda, at[tamedda
改める	arada[meru	ara[damedda
現われる	arawa[reru	ara[wareda
甘んじる	amaNziru=	amaNzida=
言い過ぎる	i:su[ngiru, <o>[i:sungiru	i:[sungida, <o>[i:sungida
衰える	odoro[eru	odo[roeda
片付ける	kadazu[geru	kada[zugeda
傾ける	kadamu[geru	kada[mugeda
考える	kaNnge[:ru	kaN[nge:da
くたびれる(体: 衣服が)	kytabi[reru	kyta[bireda
苦しめる	kurusi[meru	kuru[simeda

項目	終止形	過去形
動詞Ⅳ・Ⅴ		
試みる	kogoro[miru	kogo[romida
困らせる	komara[seru	koma[raseda
懲しめる	korasi[meru	kora[simeda
確かめる	tasjka[meru	tasj[kameda
手なずける	tenazu[geru	tena[zugeda
整える	todono[eru	todo[noeda
乗り入れる	norii[reru, [noriireru	norii[reda (OK), [noriireda
乾からびる	hij[karabiru (のみ)	hij[karabida
ひねくれる	hineku[reru, hinegu[reru	hine[kureda, hine[gureda
綻びる	hogoro[biru	hogo[robida
間違える	mazinge[:ru	mazi[ngeda
やっつける	jaccy[keru, [jaccykeru (強調)	jaccy[keda, [jaccykeda
悪びれる	warubi[reru	waru[bireda
動詞Ⅴ (40)		
甘やかす	amaja[gasu, amajagasu=	amaja[gasjta, amajagasjta=
うづくまる (踞)	uzugu[maru	uzugu[matta
恐れ入る	o[soreiru, osore[iru	o[soreitta, osore[itta
思い出す	o[moidasu, omoi[dasu (<x>ome:-)	o[moidasjta, omoi[dasjta
輝かす	kangaja[gasu	kangaja[gasjta
書き落とす	kagio[dosu, [kagiodosu	kagio[dosjta, [kagiodosjta
かっぱらう (盗)	[kappara:, kappa[ra:	[kapparatta, kappa[ratta
蹴っ飛ばす	[kettobasu, ketto[basu	[kettobasjta, ketto[basjta
蹴つまずく	[kezumazugu, kezuma[zugu	[kezumazu:da, kezuma[zu:da
縮こまる	ciziko[maru, cicjko[maru (, cicjkomaru= ?)	ciziko[matta, cicjko[matta,
滞る	todogo[:ru	todogo[:tta
跳ね回る	[hanema:ru, hanema[:ru	[hanema:atta, hanema[:tta
脹らます	huguramasu=	huguramasjta=
ぶっ通す	[butto:su, butto[:su	[butto:sjta, butto[:sjta
見失う	miusi[na: (のみ)	miusi[natta
酔っぱらう	[joppara:, joppa[ra:	[jopparatta, joppa[ratta
暖まる	adada[maru, atta[maru	adada[matta, atta[matta
改まる	arada[maru	arada[matta
売り飛ばす	urito[basu, utto[basu (のみ)	urito[basjta, utto[basjta
驚かす	odoro[gasu, odogasu=	odoro[gasjta, odogasjta=

項目	終止形	過去形
動詞V		
表立つ	omode[dazu	omode[datta
畏まる	kaſi _{ko} [maru	kaſi _{ko} [matta
活気付く	kakki[zugu	kakki[zurda
口走る	kuziba[siru, kuci _{pa} [siru	kuziba[sitta, kuci _{pa} [sitta
苦しがる	kurusi[ngaru	kurusi[ngatta
溯る	sagano[boru	sagano[botta
すつとばす	<m>[sut _{to} basu, sut _{to} [basu, <普>[hut _{to} basu, hut _{to} [basu (zi[deNsja 自転車で)	<m>[sut _{to} baſi _{ta} , sut _{to} [baſi _{ta} , <普>[hut _{to} baſi _{ta} , hut _{to} [baſi _{ta}
唆す	sosono[gasu	sosono[gaſi _{ta}
ちよるまかす	cjoroma[gasu	cjoroma[gaſi _{ta}
使い込む	cu _{ke} :[gomu, cu _{ke} :[ke:gomu, cu _{ke} :[komu, cu _{ke} :[ke:komu	cu _{ke} :[goNda, cu _{ke} :[ke:goNda, cu _{ke} :[koNda, cu _{ke} :[ke:koNda
懐かしむ	nazuga[simu, nacu _{ka} [simu	nazuga[siNda, nacu _{ka} [siNda
涙ぐむ	namida[ngumu	namida[nguNda
ひけらかす	hi _{ke} ragasu=, hi _{ke} ra[gasu	hi _{ke} ragasi _{ta} =, hi _{ke} ra[gaſi _{ta}
引っ掛かる(物; 気持が)	hikka[garu (のみ)	hikka[gatta
仄めかす	honome[gasu	honome[gaſi _{ta}
盛り上がる(表面; 場が)	mori(j)a[ngaru, [mori(j)angaru	mori(j)a[ngatta, [mori(j)angatta
やり返す	jarike[:su, jarige[:su, jake[:su, [jarike:su, [jarige:su	jarike[:si _{ta} , jarige[:si _{ta} , jake[:si _{ta} , [jarike:si _{ta} , [jarige:si _{ta}
やり直す	jarina[osu, [jarinaosu	jarina[osi _{ta} , [jarinaosi _{ta}
横たわる	jogoda[waru	jogoda[watta
喜ばす	jorogo[basu	jorogo[baſi _{ta}